

大型射出成形機導入で オーダーニーズに応える

課題

需要増の高精度大型部品の 製造設備がほしい

昭和44年に創業した中原樹脂工業株式会社は、プラスチックの成形品製造、金型の設計製造とそのコンサルティングをおもな事業内容としている。

金属製の精密部品を、熱膨張率、寸法精度、剛性・強度、導電性といった機能を損なわずに樹脂製に置き換える部品製造技術が高く評価されている。

各種機能性材料を使つての射出成形製品の製造には、材料の管理方法から、射出成形機、成形条件、金型の構造や材質の選定など各部に、射出成形品製造に必要な技術・知識・手法を多く積み重ねて保有しており、その生産実績の評価も同社の強みだった。

近年は、取引先から高精度大型部品の需要が増えており、今後もその傾向が強まることが予想されていたが、それに適する専用大型設備が不足しているため、機会損失を招いていた。また、継続的なコストダウン推進のために小型部品の多数個取りを進めていくことも必要だったが、そのためにも大型射出成形機の導入は不可欠だった。

そこで経営者は、長和町商工会に相談。専用大型設備の導入に向け、経営力向上計画の申請、ものづくり補助金を活用するために商工会の支援を受けることになった。

支援

専門家の意見も交えて 自社の強みを再確認

商工会では、専門経営支援員と協力して支援にあたった。

まず、コストダウン推進のために、経営力向上計画の策定を勧め、策定支援を行った。ここでは、生産性向上に向けて具体的な実施計画を策定した。また、喫緊の課題であった大型射出成形機の導入に向けては、ものづくり補助金を活用するため、事業計画の策定およびものづくり補助金申請書作成を支援。今後受注予定の製品についての市場などの外部環境と、自社の強みなどの内部環境の整理も行い、今後の実施事項を明確にした事業計画につなげた。

補助金申請のための計画作成などを通じて、生産性向上に向けての課題と実施事項の整理ができた。先端設備導入計画の承認を得ることもでき、税制支援を受けることもできる見込みとなる。



工場内の機械設備

また、ものづくり補助金の採択を受けて、大型射出成形機導入。すでに大型部品の引き合いもあり、小型から大型までの設備が揃ったことで、従来は部品単体でしか受注できなかったものをユニットで受注が可能になった。今まで受注できなかった大型部品も今後は継続的に受注できる見込みだ。

さまざまな顧客ニーズに応えることができるようになり、新規部品受注を期待できるほか、特殊材料の成形製品の実現により、高付加価値品への転換の可能性も大きくなり、増益が期待される。

支援の経過

| 期間 | 支援内容 |
|--------|-----------------------|
| H29年9月 | ヒアリング |
| 10月 | 経営力向上計画、ものづくり補助金の活用案内 |
| H30年2月 | 経営力向上計画の策定支援 |
| 4月 | 事業計画策定・ものづくり補助金の申請支援 |
| 6月 | 先端設備導入計画の策定支援 |

会社概要

会社名：中原樹脂工業株式会社
住所：長野県小県郡長和町長久保2062-1
電話番号：0268-68-2123
URL：http://www.nakaharajyushi.co.jp/
代表者名：代表取締役社長 中原政幸
創業年：1969年
年間売上高：非公開
従業員数：26名
商工会名・担当者名：長和町商工会・岡嶋豊